

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第32号 2018年10月2日

「人々を笑わせ、考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞。
今年の内視鏡専門医の堀内朗医師（昭和伊南総合病院：長野県駒ケ根市）が
医学教育賞に選ばれました。日本人の受賞は12年連続となったそうです。
受賞理由は「座位で行う大腸内視鏡検査—自ら試してわかった教訓」で、座っ
た姿勢なら苦痛や不快感が小さいことを自ら試して確かめたそうです。ただ、
恥ずかしくて受けたがらない人が多く、まだ採用されていないそうです。
「イグ・ノーベル賞の世界展」2018年9月22日（土）～11月4日（日）
@TOKYO DOME CITY Gallery AaMo（ギャラリー アーモ）

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第32号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆第36回コンサート
- 【2】 今後の予定（先取り情報）
 - ◆第37回コンサート
 - ◆第38回コンサート
- 【3】 サクソフオンは移調楽器！
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■■第36回コンサート■■

- ◇2018年11月18日（日曜日）
14:00 開演（13:30 受付開始）
- ◇出演：Lumie Saxophone Quartet
住谷美帆（S. Sax）、戸村愛美（A. Sax）、中嶋紗也（T. Sax）、竹田歌穂（B. Sax）
- ◇プログラム（予定）
 - ◆F. シュミット：サクソフオン四重奏 Op. 102
 - ◆G. ピエルネ：民謡風ロンドの主題による序奏と変奏
 - ◆C. ドビュッシー：「小組曲」より
ほか
- ◇料金：大人・高校生 2,000 円、中学生以下 1,000 円
- ◇会場：大倉山記念館ホール

第36回ジョイフルコンサートは
『Lumie Saxophone Quartet Concert～大倉山の秋に聴く サクソフオン四重奏と
フランス音楽』と題して、お届けします。

出演者からメッセージが届いています

はじめまして！LumieSaxophoneQuartetです。
今回のコンサートはフランス人作曲家の音楽をメインに取り上げます。
サクソフオン四重奏ならではの響きと迫力のサウンドをお楽しみいただけるプログラム
になっておりますので、是非ご来場くださいませ。
当日みなさまにお会いできること、心より楽しみにしております。
（中嶋紗也）

第36回大倉山ジョイフルコンサートは女性4人によるサクソフォンの演奏です。

華やかなステージをどうぞお楽しみになさってください。

● フローラン・シュミット/サクソフォン四重奏曲 Op. 102

フローラン・シュミットはフランスの作曲家でドビュッシー、ラヴェル、ルーセル等と同時代の作曲家で、パリ音楽院でマスネ、フォーレに学びました。ピアニストとしても卓越していたそうです。1900年にはローマ大賞を受賞しています。ちなみにラヴェルは4回挑戦しましたが、大賞を受賞することはありませんでした。

シュミットの作品の中で広く演奏されているのは「サロメの悲劇」だそうです。「サロメの悲劇」はロベール・デュミエールの詩に基づくパントマイム劇のために作曲されたもので、ストラヴィンスキーに献呈されました。後にこの「サロメの悲劇」はバレエ化されています。その時まだストラヴィンスキーは作曲家としてあまり作品は多くなかったのが、何故シュミットはストラヴィンスキーに献呈したのか謎なのですが、「火の鳥」「ペトリューシカ」「春の祭典」とこの後作品を作っていきます。シュミットの「サロメの悲劇」がストラヴィンスキーに影響を与えたことは疑う余地はないと思われます。

その頃後期ロマン派音楽は官能的な興奮と異民族音楽的なリズムやメロディーを融合させることが特徴でした。しかし1920年代～1940年代にかけて、ストラヴィンスキー、ドビュッシー、ラヴェル、ヒンデミット、バルトーク、サティ等当時の作曲家はその特徴をそぎ落とし、より簡潔で感情表現を抑制した疑似古典、疑似バロックまたは新古典主義という方向に移っていったそうです。

その中でもシュミットはあくまでも官能的興奮と民族音楽的な熱気を追求し、孤高の立場を貫こうとします。その立場がメシアン、ジョリヴェに繋がっていったと言えるそうです。

● サクソフォン四重奏曲 Op. 102

サクソフォンを演奏する人はフローラン・シュミットと言えばこの「サクソフォン四重奏曲」と「伝説」なんだそうです。でもこの「サクソフォン四重奏曲」は世界一難しい曲と言う人がちらほらいるほどの難曲だそうです。楽譜は音が多くて、跳躍も激しく、リズムも和声も入り組んでいて、4つの音のかみ合いも非常に複雑でとても難しいそうです。

曲を聴いてみると、最初は同じフレーズが繰り返されて展開していくので、ラヴェルの「ボレロ」に構成が似ているのではないかと思います。

サクソフォン四重奏は弦楽四重奏とは異なり、それぞれの楽器が単音で4つの音しか出せないのが、その4つの音でどうヴァリエーションを表現するのか作曲家にとっても演奏者にとっても難しく技量が問われるんだそうです。

先日の山田磨依さんのピアノもフランス音楽とイギリス音楽に焦点を当てて演奏されていましたが、今回はサクソフォン四重奏によるフランス音楽です。また違うフランス音楽の世界を楽しみたいと思います。(A.N)

■ 予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■ 第37回コンサート ■■

◇ 2019年1月20日（日曜日）

◇ 出演：田原綾子（ヴィオラ）、原嶋唯（ピアノ）

※田原綾子(Va)プロフィール

東京音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクールにて優勝。読売日響、東響、

東京フィル等と共演、室内楽奏者としても著名なアーティストと多数共演している。
第47回江副記念財団奨学生。

※原嶋唯 (Pf) プロフィール

第86回日本音楽コンクール第3位。第1回 Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール
第3位。第13回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA 高校生部門アジア大会
金賞(第1位)及びソリスト賞受賞。桐朋学園大学大学院修士課程在学中。

イタリア タレントミュージックマスターコースにてアンナ・マリコヴァ氏に師事。
どうぞご期待ください。

◆予約受付開始日：2018年11月19日（月曜日）

■■第38回コンサート■■

◇2019年3月17日（日曜日）

◇出演：毛利文香（ヴァイオリン）、ほか

【3】サクソフォンは移調楽器！

「移調楽器」という言葉をお聞きになったことがありますか？
音楽事典で調べると「管楽器で実際に鳴る高さ（実音）と譜面に書かれる音の高さが異なる楽器を移調楽器と呼ぶ」と書かれています。実音とは演奏された時に出る音の高さのことです。移調楽器でドを吹いてもピアノのドの音ではないということなのです。

昔、管楽器にはキー装置やヴァルブ装置がなかったので、半音階が出せませんでした。管楽器奏者は曲の調に合わせて二長調用の楽器とかイ長調用の楽器とか管の長さの違うたくさんの種類の楽器を舞台に持っていきました。やがて、キー装置やヴァルブ装置が開発され半音階ができるようになったので、各調の楽器は必要なくなりました。楽器によって安定した音階ができる、そしてきれいな音色のでる調の楽器が残りました。それが、ハ長調の楽器とは限りませんでした。

例えばクラリネットでいうと、イ長調（A {アー} 管）と変ロ長調（B {ベー} 管）が主流になりました。A管でドを吹くとピアノのラの音になり、B管でドを吹くとピアノのシの♭の音が出るのです。管の長さも4cmほど違うので、A管が太くしっとりとした音色、B管が明るい音色と違っていています。

その他の移調楽器はサクソフォン、トランペット、ホルンです。ハ長調（C {ツェー} 管）であるフルートやオーボエは移調楽器とは呼びません。

サクソフォンはソプラノとテナーが1オクターブ違いのB管で、アルトとバリトンが1オクターブ違いの変ホ長調（Es {エス} 管）になります。この4本でかなり広い音域がカバーできるので四重奏ができるのです。

サクソフォン奏者はふだんソプラノ、アルト、テナー、バリトンなど数種類の楽器を持ち替えて演奏するそうです。ピアノのドの音を出すために、Es管だとラの指使いで、B管だとシの指使いでというふうになると頭の中がパニックになるので、楽譜を移調して、Es管でもB管でも同じ指使いで吹けるようにしました。

アルト、バリトンサクソフォン用（Es管）楽譜はピアノの楽譜より1音半低く書かれ（inEsとなっている）、ソプラノ、テナーサクソフォン用（B管）の楽譜は1音高く書かれています（inBとなっている）。それによって、サクソフォン奏者は、1種類の楽器が吹けたら、鳴る音も音域も違いますが、基本的には全てのサクソフォンが吹けるようになっているのです。

何だか難しい話になってしまいました。少しは移調楽器のことおわかりいただけでしょうか？（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（9月16日公演）

『山田磨依ピアノ・リサイタル～珠玉の音楽宝石箱 フランス&イギリス～』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」51%、「良かった」27%、「普通」4%、残りは「無回答」の18%で、今回も好評でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『すばらしいPiano演奏会でした。ダマーズは初めて聴きました』『知らない曲でしたが、どれもきれいな曲で演奏者の思いが伝わってきました』『音の響きの美しさ、リズムの多彩さ、表情の豊かさ…、どれもすばらしくて感動しました』『ピアニストさんの音の粒というか、一音一音の響きがとても美しく、クリスタルを思いださせるような美しい音でした』『趣のあるこちらのホールにぴったりな洗練されて気品のある素晴らしい繊細な演奏でした』『演奏される機会が少ない曲が多かったが、どれも演奏がていねいで、音がきれいで楽しめた』『英・仏近現代の曲は、自分にとってはツボのど真ん中です。なかなか生演奏では聴けないプログラムで、たいへん満足しました』など、好意的メッセージが数多く寄せられました。

また、「スタッフの皆様の活動に感謝しています」など私たち実行委員会へのメッセージも頂きました。

一方、「空調を整えてほしい」「一番前の席に座りました。足元のサンのよごれが、ほこりが残念です」との苦情も頂きました。記念館の担当者に伝えるとともに、少しでも気持ち良くコンサートを楽しんで頂けるよう主催者（ジョイコン）としても注意していきたいと思っております。アンケート回収数：55（回収率76%）

【編集後記】

女子テニスの大坂なおみ選手が全米オープンで日本勢初の4大大会シングルス優勝を果たしました。女子世界ランキングも今年はじめの70位から7位に躍進です。テレビも連日取り上げ、なかば「フィーバー」状態で、本人も戸惑っているようです。おそらく、俄かファンも大勢増えたことでしょう。従来からの隠れファンとしては、更なる活躍を静かに見守りたいものです。（お）

※このメールマガジンは、

大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
